

ディーツヘルツタール

ドイツ・ヘッセン州ディーツヘルツタール

旧石橋町と旧シュタインブリュッケンが日本語で同じ「石の橋」を意味することから交流が続けられ、平成17年には姉妹都市締結30年を迎えました。それぞれ合併し下野市とディーツヘルツタールとなりましたが、その後も現在まで交流が続けられています。

旧シュタインブリュッケンは人口10,000人に満たない小さな村で森林と山地に囲まれ、山と溪谷のすばらしい景観を誇っている政府公認の保養地です。

第19回グリムの里 夏期日本語講習会

○講習会の経緯

今年で第19回目を迎えたグリムの里夏期日本語講習会は、今から20年前（1992年）に、現宇都宮大学名誉教授の橋本孝氏（とちぎ日独協会会長）のもとに、ドイツのミュンヘン大学より大学生の夏期日本語講習会の開催依頼があり、ドイツと姉妹都市関係にあった石橋町に、橋本氏がその依頼を持ちかけたことがきっかけで始まりました。

同年2月には、既に石橋町国際交流協会が設立していたこともあり、協会の協力（ホームステイ受け入れ催が実現しました）。

下野市国際交流協会の事業として例年8月に開催され、約2週間、ミュンヘン大学生8名程度が参加しています。講習会の期間中は

下野市内の家庭にホームステイしています。

○今年度の様子

グリムの里夏期日本語講習会は今年で第19回目となりました。今年度は、ミュンヘン大学生7名（男性4名・女性3名）が参加し、下野市内の家庭にホームステイしながら日本語の勉強や茶道、浴衣着付等の日本文化の体験をしました。

大学生たちは、約2週間の下野市での講習会を終えた後、東京へ向かい、代々木オリンピック村の宿泊施設を拠点にそれぞれ大学での研修や各地の観光をします。

・日程

8月17日～8月31日

・内容：日本語講習、日本文化体験（茶道、浴衣着付）

石橋高校との交流会、ふくべ細工体験、益子焼手びねり体験、酒蔵見学、市内見学、宇都宮市散策等

○ホームステイ受け入れについて

下野市国際交流協会では毎年、グリムの里夏期日本語講習会を開催するにあたり、ホストファミリーの募集をしています。例年6月の広報しもつけに、ホストファミリー募集の記事を掲載していますので、異文化交流に興味がある方はお問い合わせください。

■問い合わせ先

国内・国際交流とも
生活安全課

☎(40)5555



たばこを自分では吸っていないのに他人の煙を吸わされることを何と云う?
①能動喫煙 ②受動喫煙 ③一時喫煙